

## 1. 事業の概要

平成 29 年度は、フェロー研究事業や研究助成事業の強化を中心に事業を展開しました。

フェロー研究事業では、常勤3名および客員1名の合計4名のフェローを新規採用し、全体で16名になりました。研究活動では、優れた成果の創出と発信に努め、特に世界で権威のある学術雑誌の一つ”Nature Communications”誌に2件の論文が掲載されました。また、フェロー主催のワークショップを3回開催し、質の高い議論が交わされました。

研究助成事業では、豊田理研スカラールの助成先を、これまでの工学系に加え理学系にも拡大しました。これにより、平成28年度に開始した、若手研究者の育成や連携促進を狙いとする「異分野若手交流会」、およびこれを契機に生まれた共同研究を支援する「スカラール共同研究」の対象分野が広がりました。

一方、フェロー研究をはじめとする公益事業を、より広く社会に発信すると共に、井口洋夫前所長の業績を伝える施設「井口洋夫記念ホール」の建設が平成30年2月末に完了いたしました。今後、フェローの研究発表会やワークショップ、各種講演会・交流会などの開催に加え、研究者間でネットワーク構築するためのハブとしても、積極的に活用して行く予定です。

財政面では、運営費の主原資となる保有株式の配当収入が、平成29年度も平成28年度と同等の高い水準となりました。この収益の一部を、平成26年度から積立てを行ってきた資産取得資金と合わせて、「井口洋夫記念ホール」の建設資金に充てました。

また、本ホール完成を機に将来の大規模修繕に備える目的で、資産取得資金として研究棟と併せて30年間で約7.9億円を目標に修繕積立てを開始し、平成29年度は0.25億円の積立てを行いました。一方、今後株式の配当収入が大きく落ち込んだ場合でも、事業を継続するために、平成27年度より特定費用準備資金として3億円を目標に積立てを行っておりますが、今年度は1.3億円の積立てを行いました。

以下、各事業および平成29年度に企画・推進した取り組みについて、実施内容を説明します。

# 1. 研究事業

## 1-1 フェロー事業

### (1) フェローと研究テーマ

平成 29 年度は新規に常勤フェロー3 名、客員フェロー1 名を採用し、常勤フェロー9 名、客員フェロー7 名の計 16 名で研究活動を実施いたしました。

常勤フェロー、客員フェローの研究テーマを、それぞれ表 1、表 2 に示します。  
研究内容および成果の詳細は、「豊田研究報告 No.71」に記載の通りです。

表 1 常勤フェローと研究テーマ

氏名		研究テーマ
上田 寛	東京大学名誉教授	新奇強相関電子系物質の開発
野上 正行	名古屋工業大学名誉教授	ガラス中でのガス高速移動現象の解明とその応用
河本 邦仁	名古屋大学名誉教授	高効率熱電変換材料の化学創製
小島 憲道	東京大学名誉教授	光・スピン・電荷の相乗効果が拓く新しい分子磁性の開拓
末元 徹	東京大学名誉教授	汎用型フェムト秒発光計測装置の開発と金属における発光現象の研究
平田 文男	分子科学研究所名誉教授	水溶液中の蛋白質の構造揺らぎを制御する統計力学理論の構築
(新任) 石政 勉	北海道大学名誉教授	新物質探索による準結晶構造と物性の研究
(新任) 黒田 新一	名古屋大学名誉教授	電場誘起 ESR による有機半導体のキャリア観測と物性の制御
(新任) 富宅喜代一	神戸大学名誉教授	気相イオンの核磁気共鳴分光法の研究

表 2 客員フェローと研究テーマ

	氏名	研究テーマ
岩澤 康裕	東京大学名誉教授 電気通信大学特任教授	高性能 X 線吸収微細構造法等による触媒反応の先導的基礎研究
齋藤 軍治	京都大学名誉教授	新規量子スピン液体・有機超伝導体の開発
竹添 秀男	東京工業大学名誉教授	コロイド粒子による液晶の配向欠陥と光制御
石田 清仁	東北大学名誉教授	合金状態図(相図)と組織制御に関する基礎及び応用研究
榎 敏明	東京工業大学名誉教授	ナノグラフェンの電子的・磁氣的性質
奥田 雄一	東京工業大学名誉教授	極低温における量子固体・液体の研究
(新任) 前田雄一郎	名古屋大学 シニア・リサーチ・フェロー	アクチン・フィラメントの構造と機能

## (2) フェロー研究報告会

フェローの研究成果を発表、議論するフェロー研究報告会を6月、2月の2回開催いたしました。発表テーマ、発表者等の詳細を表3に記載いたします。

表3 フェロー研究報告会

第22回フェロー研究報告会				
日時	平成29年6月12日(月)	場所	豊田理化学研究所 オープンコミュニティ	
聴講者	74名 (理事/監事/評議員:18、フェロー/元フェロー:30、一般:26)			
発表テーマ(発表者):				
①	蛋白質の構造揺らぎとアンフィンセンのドグマ			(平田文男フェロー)
②	光・スピン・電荷の相乗効果による鉄混合原子価錯体の電荷移動相転移および磁性制御			(小島憲道フェロー)
③	ナノブロックインテグレーションによる二次元超格子熱電変換材料の創製			(河本邦仁フェロー)
④	金属・半金属発光の観測に向けたフェムト秒発光測定装置の開発			(末元 徹 フェロー)
第23回フェロー研究報告会				
日時	平成30年2月22日(木)	場所	豊田理化学研究所 オープンコミュニティ	
聴講者	86名 (理事/監事/評議員:17、フェロー/元フェロー:29、一般:40)			
発表テーマ(発表者):				
①	高活性・高耐久性燃料電池 PtNi <sub>x</sub> /CMC 電極触媒の開発設計			(岩澤康裕客員フェロー)
②	ET系量子スピン液体・超伝導体の設計・作成と構造・物性: 現状と総括			(齋藤軍治客員フェロー)
③	液晶微小球レーザ			(竹添秀男客員フェロー)
④	新奇強相関電子系物質の開発			(上田 寛 フェロー)
⑤	ガラスへの水素の拡散・反応とその光材料への展開			(野上正行フェロー)
⑥	無機有機複合超格子熱電変換材料の化学創製			(河本邦仁フェロー)

## (3) 豊田理研ワークショップ

豊田理研ワークショップは、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供し、各分野の研究進展に寄与することを目的に、平成27年度に開始しました。平成29年度はトヨタ産業技術記念館を会場に表4に示す3件を開催しました。

表4 豊田理研ワークショップ

通算回数	開催日	テーマ	代表者	参加者数
第5回	2017年10月19日 ～10月20日	スピン秩序の動的光制御	末元 徹 フェロー	55名
第6回 (国際WS)	2017年11月10日 ～11月12日	New Trends in Solid State Chemistry: from Oxides to Mixed Anion Compounds	上田 寛 フェロー	80名 (海外招聘講演者 7名)
第7回 (国際WS)	2017年11月24日 ～11月26日	Chirality in Soft Matter	竹添秀男客員 フェロー	75名 (海外招聘講演者 7名)

## 1-2 名古屋大学「リーディング大学院」への協力

名古屋大学の要請にこたえ、2名の豊田理研フェローが客員教授として、「連携研究所講義(1単位)」を受け持ち、2日間にわたり名古屋大学大学院の学生10名の教育にあたりました。講義の概要を表5に示します。

なお、名古屋大学の「リーディング大学院プログラム」は、環境問題の恒久的な解決をもたらす国際的なリーダー科学者養成を目的とする国家プロジェクトです。

表5 リーディング大学院講義概要(自然科学連携講義Ⅲ)

学部・大学院	大学院	科目分類	B類	授業形態	講義
開講学期：6月26日(月)、6月27日(火) 教室：豊田理化学研究所オープンコミュニティ			単位数：1 担当教員名：小島憲道、河本邦仁		
(講義の目的とねらい) グリーン自然科学各分野の学問的背景や研究トピックスを、豊田理研フェローの集中講義を通じて学ぶ。					
(授業内容)  (小島憲道) 遷移金属錯体を中心とした分子集合体の物性科学 物質から新しい物性現象や機能性を開拓する際、物質の構成元素の種類を広げた物質群や有機・無機複合物質、光学的性質・磁性・伝導性などを組み合わせた多重機能性、低温・高圧などの極端条件を組み合わせた多重極端条件という多次元座標で物質を眺めると、そこには全く新しい物性・機能性を秘めた未開拓の領域が広がっている。本講義では、このような物質科学の多次元座標という視座に立ち、遷移金属錯体を対象に、重要な光学的性質、磁性および輸送現象を解説した後、光誘起磁性や電荷移動相転移など光・スピン・電荷の相乗効果によって発現する多重機能性の最前線とその分子システム設計について解説する。  (河本邦仁) 熱電変換材料の構造・物性 熱電変換材料は、熱から電気を直接取り出すことができるエネルギー変換材料として、エネルギー・環境・情報通信・輸送機関・健康医療等の様々な分野で役立つ可能性を秘めているため、高効率かつ高付加価値な材料の探索・開発研究が世界中で繰り広げられている。本講義では、高効率熱電変換材料の創製に資するナノブロックインテグレーションの概念、ナノ熱電変換材料の構造と物性、無機/有機ハイブリッド化による高効率化・フレキシブル性の付与等について、ポストグラフェンの代表格である二次元層状構造遷移金属二カルコゲナイド(TMDC)を中心に解説する。また、熱電変換素子の新しい応用として、PV/TEハイブリッド太陽電池の開発動向やIoTへの展開等についても紹介する。					

### 1-3 「豊田理研懇話会」の開催

「最先端で活躍している著名な先生をお招きして、難しいことを、易しく」話していただくセミナー「豊田理研懇話会」を、フェロー研究活動活性化の一環として開催しております。平成 29 年度も例年同様 3 回開催し、豊田理研関係者のみならず、近隣の大学、研究機関の方々にもご参加いただいて、活発な討議が行われています。平成 24 年度に開始以来、通算の開催回数は 18 回となりました。セミナー題目、講演者の一覧を表 6 に示します。講演要旨は、「豊田研究報告 No.71」に記載しております。

表 6 平成 29 年度 豊田理研懇話会のテーマ

回	年月日	講演者	セミナー題目
1	平成 29 年 5 月 25 日(木)	東北工業大学名誉理事長・名誉学長 東北大学 名誉教授 岩崎俊一 氏	「垂直磁気記録とビッグデータ時代」 聴講:92 名
2	平成 29 年 9 月 1 日(金)	公益財団法人 先端医療振興財団 理事長 京都大学大学院医学研究科 客員教授 京都大学名誉教授 本庶 佑 氏	「獲得免疫の驚くべき幸運」 聴講:119 名
3	平成 30 年 1 月 16 日(火)	東北大学材料科学高等研究所 所長 東北大学大学院理学研究科数学専攻 教授 国立研究開発法人 理化学研究所 理事 小谷元子 氏	「数学-材料科学連携による挑戦」 聴講:151 名

### 1-4 物性談話会

名古屋大学と共催で、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図る場として活動しています。平成 29 年度は、8 回の談話会を開催いたしました。講演題目、講演者の一覧を表 7 に示します。昭和 38 年に発足以来、通算の開催回数は 392 回となりました。

表 7 平成 29 年度 物性談話会の活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	平成 29 年 6 月 8 日(木)	東北大学 教授 谷垣勝己氏	幾何空間・表面・界面における構造制御と物性: 新しい機能とエネルギー変換 聴講:26 名
2	平成 29 年 6 月 12 日(月)	大阪大学 招聘教授 佐々木祥介 氏	整数・分数量子ホール効果 聴講:19 名
3	平成 29 年 6 月 28 日(水)	東北大学 准教授 野村健太郎 氏	トポロジカル物質におけるスピントロニクス現象 聴講:39 名
4	平成 29 年 7 月 15 日(土)	北海道大学 教授 折原 宏 氏	液晶電気対流により発現した負の粘性と履歴曲線 聴講:40 名
5	平成 29 年 9 月 12 日(火)	東北大学 教授 佐藤 卓 氏	反転対称性を持たない磁性体中の磁気励起 聴講:14 名

6	平成 29 年 11 月 1 日(水)	東京大学 教授 中辻 知 氏	強相関電子系におけるトポロジカル量子相と その機能 聴講:50 名
7	平成 29 年 11 月 24 日(金)	東京工業大学 教授 細野秀雄 氏	エレクトライド(電子がアニオンとして働く物質)の 物質科学と応用展開 聴講:40 名
8	平成 29 年 12 月 8 日(金)	岡山県立大学 教授 末岡浩治 氏	原子レベルの欠陥制御によるシリコン結晶の 高品位化 聴講:20 名

### 1-5 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で開催しており、平成 20 年からは、一般市民にも公開しています。平成 29 年度は 4 回開催いたしました。講演題目、講演者の一覧を表 8 に示します。

平成 8 年に発足以来、本フォーラムの通算開催回数は 116 回となりました。

表 8 平成 29 年度 分子科学フォーラムの活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	平成 29 年 8 月 2 日(水)	東京大学先端科学技術研究センター 教授 西成活裕 氏	渋滞のサイエンス
2	平成 29 年 10 月 17 日(火)	慶應義塾大学理工学部 教授 寺坂宏一 氏	世界に広がるファインバブルサイエンス
3	平成 29 年 12 月 22 日(金)	海洋研究開発機構(JAMSTEC) 海洋生命理工学研究開発センター センター長 出口 茂 氏	深海に学ぶ未来技術
4	平成 30 年 3 月 9 日(金)	分子科学研究所 准教授 藤 貴夫 氏	究極の光を作る
		分子科学研究所 教授 解良 聡 氏	光で有機分子の電子の特徴を調べる

## 2. 研究助成事業

### 2-1 豊田理研スカラー

#### (1) 平成 29 年度の採択状況

平成 29 年度は、表 9 に記載の 26 名の研究者に対し、規定の研究助成金を支給し、研究推進を支援するとともに、助成金贈呈書を授与しました。研究は年初に策定した研究計画にそって実施され、「豊田研究報告 No.71」に記載の成果を収めました。なお平成 29 年度より、これまでの工学系に加え理学系にも助成対象を拡げました。

表 9 平成 29 年度豊田理研スカラーの所属と研究テーマ

No.	大学名		氏名	職位	研究テーマ
1	東北大学	工	丸山 伸伍	助教	機械学習を組み合わせた有機半導体薄膜におけるドーピング効果のハイスループット探索
2		理	佐藤 雄介	助教	siRNA 創薬の細胞内デリバリーイメージングを指向した RNA 結合性蛍光プローブの開発
3			檜本 悟史	助教	木質バイオマス有効利用へ向けた植物細胞壁改変技術の開発
4	東京大学	工	NGUYEN THANH VINH	特任研究員	MEMS2 軸力センサを用いた微小液滴の滑りにおける接触面の力分布の計測
5	豊橋技術科学大学	工	関口 寛人	准教授	三原色集積窒化物 LED 実現に向けた選択成長技術および発光色制御技術の高度化
6			東城 友都	助教	環状共役 $\pi$ 分子の配置制御および、環状共役 $\pi$ 分子同士の熱融合による単層カーボンナノチューブの合成
7			丸山 智史	特任助教	バイオマーカー検出、及びその検出向上のための参照 LSI 混載型光学検出バイオセンサに関する研究
8	名古屋大学	工	椿野 大輔	講師	多層運動評価の最適化に基づく複数の移動体の自律的・協調的な行動則設計
9		理	井村 敬一郎	助教	価数揺動を利用した新規熱電材料物質の探索
10			北浦 良	准教授	グラフェン液体セルの自在デザインと応用
11	名古屋工業大学	工	住井 裕司	助教	水溶性空間を指向した分子設計に基づく不凍活性物質の開発
12			知場 三周	助教	2 軸濃度勾配を利用したラスマルテンサイトの組織サイズ決定因子の解明

13	豊田工業大学	工	半田 太郎	教授	分子イメージング技術を用いた衝撃波発生条件における超音速マイクロ内部流れの現象解明
14	三重大学	工	湊元 幹太	准教授	ロバストな細胞膜マーカ解析探針としての人工細胞脂質膜ナノビーズ
15			鳥飼 正志	助教	自己組織化の逆問題の解法
16			藤井 義久	准教授	難脱硫成分を分離可能なオイル耐性ろ過フィルターの探索
17	京都大学	工	権 正行	助教	発光団集積型かご型シルセスキオキサン合成と応用
18			和氣 剛	助教	酸素分圧制御による Ce 置換 M 型フェライト磁石の可能性の探索
19		理	金 賢得	助教	水素の室温大量貯蔵・輸送を実現する多孔性構造の分子ダイナミクス描像に基づく解明と先導的デザイン
20			道岡 千城	助教	W 型フェライトの単結晶を用いた磁気異方性の学理構築
21	大阪大学	基礎工	岡本 行広	准教授	リポドナノテクノロジーによる膜タンパク質分離デバイスの創成
22			山田 道洋	特任研究員	シリコン量子井戸構造への高効率スピン注入と室温スピントランジスタへの応用
23		工	岡田 健司	助教	有機リン酸を原料に用いたリン酸鉄リチウムの合成:表面修飾およびナノ粒子化に向けて
24	九州大学	工	小出 太郎	助教	電子受容性ポルフィリノイドの新規合成・修飾法の開発と材料応用
25			三浦 佳子	教授	精密高分子を用いた人工抗体の開発
26		理	松島 綾美	准教授	新規な薬剤結合増強法を目指したエストロゲン関連受容体とハロゲン化フェノールの結合解析

## (2) 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、豊田理研スカラー、特定課題研究代表者を対象に、合宿形式の異分野若手交流会を開催しました。さまざまな分野の研究者に集合していただき、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出のきっかけとなる機会を提供しました。更に、顕著な業績を挙げている豊田理研フェローから助言を受けることができ、参加者から大変高い評価を頂きました。表 10 に内容を示します。



表 10 第 2 回 異分野若手交流会概要

日 時	平成 29 年 7 月 22 日(土)～23(日)	
場 所	株式会社豊田自動織機 グローバル研修センター幡豆アカデミー	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田理研スカラー(23 名)</li> <li>・スカラー共同研究代表者(2 名)</li> <li>・特定課題研究代表者(3 名)</li> <li>・豊田理研フェロー(7 名)</li> <li>・所長、企画・運営委員(4 名)</li> <li>・審査委員(5 名)</li> <li>・事務局(5 名)</li> </ul>	合計 49 名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紹介プレゼンテーション</li> <li>・ポスターセッション</li> <li>・フェロー特別講演</li> <li>・意見交換会</li> <li>・車座座談会 など</li> </ul>	

### (3) 豊田理研スカラー共同研究

平成 29 年度実施の「豊田理研異分野若手交流会」の中から、スカラー間での「共同研究」が申請され、審査の結果表 11 に示す 2 テーマが「豊田理研スカラー共同研究 Phase1」として採択されました。

また平成 28 年度に「豊田理研スカラー共同研究 Phase1」として実施した共同研究テーマに関しても 1 年間の延長が承認され、表 12 に示す 2 テーマが「豊田理研スカラー共同研究(Phase2)」に移行しました。

表 11 平成 29 年度「豊田理研スカラー共同研究(Phase 1)」

No	所 属・氏 名	共同研究テーマ名
1	三重大学 准教授 湊元幹太	曲率の篩効果：細胞膜の曲率制御による膜タンパク質分離法
	大阪大学 准教授 岡本行広	
2	三重大学 准教授 藤井義久	分子間相互作用を利用したフィルター型分離リアクターの開発
	九州大学 教授 三浦佳子	
	九州大学 准教授 松島綾美	

表 12 平成 29 年度「豊田理研スカラー共同研究(Phase 2)」

No	所 属・氏 名	共同研究テーマ名
1	東京大学 助教 高橋英俊	超臨界流体堆積法を用いた MEMS 圧力センサの作製
	東京大学 講師 百瀬 健	

2	京都大学 助教 櫻井庸明	オリゴ (パラフェニレンエチニレン) を基盤とした高い配向・配列秩序と異方的電荷輸送特性を有する革新的有機材料の創製
	豊橋技術科学大学 助教 荒川優樹	
	豊橋技術科学大学 助教 石井佑弥	

## 2-2 特定課題研究

特定課題研究は、中長期的な視点から見て重要と思われる萌芽的な研究課題に取り組んでいる研究チームを激励し、その研究の進展を図り、新しい研究領域を開拓するための費用の一部を援助するユニークな制度です。平成 29 年度は、表 13 に記載の継続課題 3 件、新規採択課題 1 件の実施となりました。各研究代表者が中心となり、コアメンバーに関係者を加えた研究会が全国各地で計画的に開催され、新研究領域構築に向けた議論が深められました。詳細は「豊田研究報告 No.71」に記載いたしました。

表 13 平成 29 年度「特定課題研究」テーマ

No.	分類	大学	推進責任者	職位	研究テーマ
1	継続	北海道大学	西浦 博	教授	感染症数理モデルの解析に基づく新規ワクチンの定期接種導入に関する判断の客観化
2	継続	東京工業大学	東 正樹	教授	多元秩序制御による熱・体積機能の開拓
3	継続	大阪大学	土井祐介	准教授	非線形エネルギー輸送による新しい物性理論の探求
4	新規	京都大学	蛸原義雄	准教授	制御工学研究者と応用数学研究者の連携による革新的な制御理論構築

### 3. 建築、工事関係

#### 3-1 井口洋夫記念ホール建設

平成 26 年度から、フェロー研究をはじめとする公益事業を、より広く社会に向けて発信すると共に、井口洋夫前所長の業績を長く後世に伝える施設「井口洋夫記念ホール」の建設を進めてきました。3 年間の計画期間を経て、平成 28 年度に周辺工事に着手しましたが、表 14 に示しますように、平成 29 年度は地鎮祭を経て本体工事にも着手し、平成 30 年 2 月末に建物が完成し、3 月に竣工式を執り行ないました。表 15 に概要を示します。

表 14 平成 29 年度井口洋夫記念ホール建設の経緯

年 月	主な出来事
平成 29 年 4 月 11 日	地鎮祭、護岸工事開始
7 月	記念ホール本体建設工事着手
10 月	立柱式
平成 30 年 2 月 末	建物竣工、引渡し
3 月 5 日	理事/監事/評議員向け内覧会
3 月 12 日	竣工式

表 15 井口洋夫記念ホールの概要

項 目	内 容
構造	鉄骨造地上 2 階建
建築面積	約 820m <sup>2</sup>
延床面積	約 1170m <sup>2</sup>
主な施設	1 階 井口ホール、ホワイエ 2 階 展示室、大会議室、応接室

### 4. 広報活動

#### 4-1 「豊田研究報告」の刊行

研究者の研究業績の蓄積と発表のため、「豊田研究報告」を年 1 回刊行しています。平成 29 年度は、第 70 号を発行いたしました。本号より、冒頭に豊田理研の 1 年の活動内容を要約した「豊田理化学研究所のあゆみ」を掲載しました。研究論文、報告は常勤フェロー 9 名、客員フェロー 8 名、元フェロー 1 名、豊田理研スカラー 33 名、特定課題研究 5 件による合計 56 編となりました。交換雑誌として広く大学、図書館等へ配付いたしました。

## 4-2 豊田理研紹介パンフレットの制作

所外の方に、豊田理化学研究所を紹介する目的で、新たにパンフレットを制作しました。豊田理研の沿革、事業、組織体系図、井口洋夫記念ホールなどを、図や写真を交えて分かり易く紹介しています。

## 4-3 ホームページの維持、管理

財団設立趣意書、沿革、公開情報等をまとめた「財団概要」、事業内容の詳細を記述した「事業紹介」の他、フェローの研究内容・成果を掲載した「フェロー紹介」、公募に関する情報をお知らせする「募集情報」、「トピックス記事」等をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたしました。

また、ホームページを用いたフェローワークショップをはじめとした、各種研究活動の発信を行いました。

## Ⅱ. 処務の概要

### 1. 役員・評議員に関する事項

- (1) 豊田達郎 評議員 : 逝去により平成 29 年 12 月 30 日付けで退任。
- (2) 理事改選  
平成 29 年 6 月 9 日付けで、理事 1 名(石川宣勝)が退任し、新たに 2 名(川合眞紀、中村新男)が就任。

平成 30 年 3 月 31 日現在の役員は、別表 1.「役員・評議員名簿」を参照。

### 2. 職員に関する事項

平成 30 年 3 月 31 日現在の職員は、別表 2.「研究職員名簿」、および別表 3.「職員名簿」を参照。

### 3. 役員会に関する事項

平成 29 年度は、通常理事会 2 回、書面審議による定時評議員会 1 回、書面審議による理事会 2 回、臨時評議員会 1 回を開催いたしました。

表 16 理事会、評議員会の開催状況

役員会	開催年月日	議案	結果
第 24 回理事会	平成 29 年 6 月 1 日(木)	1)平成 28 年度 事業報告書承認の件 2)平成 28 年度 決算報告書承認の件 3)理事候補者名簿の件 4)第 13 回評議員会開催の件	承認 承認 承認 可決
第 13 回 評議員会 (書面審議)	平成 29 年 6 月 9 日(金)	1)平成 28 年度 事業報告書承認の件 2)平成 28 年度 決算報告書承認の件 3)理事選任の件	可決 可決 可決
第 25 回理事会 (書面審議)	平成 29 年 6 月 20 日(火)	1)代表理事(理事長)、業務執行理事(所長、常務理事)選定の件 2)業務執行理事(所長、常務理事)の報酬額について 3)企画・運営委員会委員およびフェロー選考委員会委員選定の件	可決 可決 可決
第 26 回理事会 (書面審議)	平成 30 年 2 月 9 日(金)	1)第 14 回評議員会招集の件	可決

第 27 回理事会	平成 30 年 3 月 5 日(月)	1)平成 30 年度 事業計画書の件 2)平成 30 年度 収支予算書の件 3)井口洋夫記念ホール建設資金の件 4)資産取得資金積立ての件 5)特定費用準備資金積立ての件	可決 可決 承認 承認 承認
第 14 回 評議員会	平成 30 年 3 月 5 日(月)	1)井口洋夫記念ホール建設資金の件 2)資産取得資金積立ての件 3)特定費用準備資金積立ての件	可決 可決 可決

#### 4. 許可・認可・証明等に関する事項

該当事項無し

#### 5. 契約に関する事項

- (1) 技術協力契約 株式会社豊田中央研究所(平成 29 年 4 月 1 日)
- (2) 事業用借地権設定契約のための覚書 トヨタ自動車株式会社(平成 29 年 4 月 1 日)
- (3) 監査契約書 後藤公認会計士事務所(平成 29 年 4 月 1 日)
- (4) 出向社員の取扱に関する協定書 株式会社豊田中央研究所  
(平成 29 年 11 月 13 日、平成 30 年 3 月 26 日)
- (5) 工事確定合意書 株式会社竹中工務店(平成 29 年 5 月 16 日)
- (6) 井口洋夫記念ホール展示工事 設計・施工一括契約書 株式会社乃村工藝社  
(平成 29 年 1 月 20 日)
- (7) 事業活動総合保険 三井住友海上火災保険株式会社(平成 29 年 7 月 1 日)  
火災保険 三井住友海上火災保険株式会社(平成 30 年 3 月 1 日)
- (8) 共同研究契約 立命館大学(平成 29 年 4 月 1 日)
- (9) 共同研究契約、資産賃貸借契約書 分子科学研究所(平成 29 年 4 月 1 日)
- (10)共同研究契約 北海道大学(平成 29 年 4 月 1 日)
- (11)共同研究契約 東京大学(平成 29 年 9 月 1 日)

#### 6. 主務官庁の指示に関する事項

該当事項無し

#### 7. その他重要事項

該当事項無し

## 別表 1

## 役員・評議員名簿

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

(理事の任期:平成 29 年 6 月 9 日～平成 31 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏名	現職等	備考
理事長 (代表理事)	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社 名誉会長	
所長 (業務執行理事)	玉尾皓平	国立研究開発法人 理化学研究所 研究顧問 グローバル研究クラス長	
常務理事 (業務執行理事)	斎藤 卓	株式会社豊田中央研究所 特別顧問	常勤
	石橋善弘	国立大学法人名古屋大学 名誉教授	
	井上博允	国立大学法人東京大学 名誉教授	
	大峯 巖	国立大学法人名古屋大学 名誉教授	
	川合眞紀	自然科学研究機構 分子科学研究所 所長	
	菊池 昇	株式会社豊田中央研究所 代表取締役所長	
	北川禎三	兵庫県立大学 特任教授	
	榊 裕之	学校法人トヨタ学園 豊田工業大学 学長	
	庄子哲雄	国立大学法人東北大学 教授	
	高橋 実	愛知県公立大学法人 理事	
	張 紀久夫	国立大学法人大阪大学 名誉教授	
	豊田章男	トヨタ自動車株式会社 取締役社長	
	豊田幹司郎	アイシン精機株式会社 取締役会長	
	中村新男	国立大学法人名古屋大学 名誉教授	
	山本 尚	学校法人中部大学 教授	

(監事の任期:平成 28 年 6 月 14 日～平成 32 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏名	現職等
監事	加藤伸一	トヨタ自動車株式会社 顧問
	豊田鐵郎	株式会社豊田自動織機 取締役会長
	好川純一	トヨタ紡織株式会社 元会長

(評議員の任期:平成 27 年 6 月 12 日～平成 31 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
評議員	網岡卓二	トヨタ車体株式会社 相談役
	荒島正	豊田合成株式会社 取締役会長
	池淵浩介	トヨタ自動車株式会社 相談役
	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社 取締役会長
	大橋正昭	愛知製鋼株式会社 顧問
	加藤宣明	株式会社デンソー 取締役会長
	加留部 淳	豊田通商株式会社 取締役社長
	齋藤明彦	トヨタ自動車株式会社 顧問
	新宮威一	ダイハツ工業株式会社 元顧問
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 相談役
	豊田周平	トヨタ紡織株式会社 取締役会長
	新美篤史	株式会社ジェイテクト 相談役
	濱口道成	国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事長
	深谷紘一	株式会社デンソー 顧問
	藤森文雄	アイシン精機株式会社 相談役
	増田義彦	学校法人トヨタ学園 理事長
	森田章義	愛知製鋼株式会社 顧問
	安田善次	トヨタ自動車東日本株式会社 名誉顧問
	山口千秋	東和不動産株式会社 取締役社長



## 別表 2

## 研究職員名簿

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

資 格	氏 名	就 任 年 月	備 考
フェロー	上田 寛	平成 26 年 4 月	常 勤
	野上 正行	平成 26 年 4 月	常 勤
	河本 邦仁	平成 27 年 4 月	常 勤
	小島 憲道	平成 27 年 4 月	常 勤
	末元 徹	平成 28 年 4 月	常 勤
	平田 文男	平成 28 年 4 月	常 勤
	石政 勉	平成 29 年 4 月	常 勤
	黒田 新一	平成 29 年 4 月	常 勤
	富宅 喜代一	平成 29 年 4 月	常 勤
客員フェロー	岩澤 康裕	平成 27 年 4 月	非 常 勤
	齋藤 軍治	平成 27 年 4 月	非 常 勤
	竹添 秀男	平成 27 年 4 月	非 常 勤
	石田 清仁	平成 28 年 4 月	非 常 勤
	榎 敏明	平成 28 年 4 月	非 常 勤
	奥田 雄一	平成 28 年 4 月	非 常 勤
	前田 雄一郎	平成 29 年 4 月	非 常 勤

## 別表 3

## 事務職員名簿

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

所 属	氏 名	就任年月	担当業務(役職)
事 務 局	藤川 武敏	平成 27 年 2 月	事務全般(事務局長)
	太田 孝夫	平成 29 年 7 月	事務全般(主査)
総務グループ	野口あゆみ	平成 20 年 4 月	一般事務(リーダー)
	浜辺 宏子	平成 26 年 7 月	一般事務
	加藤 美香	平成 29 年 4 月	一般事務
研究支援グループ	宮下 政則	平成 27 年 9 月	テクニカルスタッフ
	鈴木 教友	平成 28 年 2 月	テクニカルスタッフ
	松島 悟	平成 29 年 1 月	テクニカルスタッフ

## 附属明細書について

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年6月  
公益財団法人 豊田理化学研究所